

山行報告

★小金沢山(9月1日)

参加者 会員(障害者 4 名、健常者 7 名)
会員外(健常者 1 名)

甲斐大和駅からタクシーで湯ノ沢峠まで行く。ここまで登れば小金沢山までの標高差も、360mしかない。しかし、アップダウンがあり、距離が長いため、最後は遅れる人も出てきた結構厳しいルートだった。

タクシーの車窓からフシグロセンノウの花がいくつか見られ、楽しませてもらった。今回は、AMさんが初参加だ。登山経験はほとんどないそうだが、長い距離も若さで乗り越えてくれるだろう。

湯ノ沢峠から白谷丸までが今回最も急登となるところだ。白ザレの箇所に来ると、マツムシソウが咲いていた。今年はじめて出会うマツムシソウに感激だ。



黒岳に向けて草原の尾根を登る

草原状の尾根を登り、振り向くと富士山が雲の間から山腹の姿を見せていた。次第に雲が取

れてきたが、山頂が見えることはなく、途中からまた雲の中に姿を隠してしまった。

白谷丸を過ぎ、少し下って黒岳への登りとなる。草原には、ハンゴンソウやコウメバチソウ、ハクサンフウロ、コゴメグサなどが咲いていた。



牛奥の雁ヶ腹摺山の山頂直下を歩く

黒岳から先は、倒木が多くなる。何度も倒木をまたぎ、時にはくぐって進んでいく。川胡桃沢の頭に着き、小休止するがすぐに出発する。賽の河原付近は、草原で展望の良い場所だ。しかし、今日は直射日光に照らされてとても暑い。しかも、おなかもすいてきた。



牛奥の雁ヶ腹摺山山頂にて

牛奥の雁ヶ腹摺山は、小金沢山と共に、秀麗富岳 1 2 景の一つだ。南側の展望が良い。超え

てきた川胡桃沢の頭もよく見える。ここでお昼を食べて先を急ぐ。



小金沢山山頂にて

小金沢山は、今回の最高峰だ。展望も良く、今日歩いてきたコースも見える。ここで、福ちゃん荘に着く時間がほぼ読めてきたので、タクシー会社に電話を入れて16時30分に迎えに来てもらうことで予約する。しかし、もう少し余裕を見るべきだった。

小金沢山からは、片側が切れたところが多くなり、慎重に通過する。危険箇所を過ぎ、草原の尾根に出たが、今度は疲れが出始めたようだ。タクシーを予約してしまっただけに、やきもきしたが、石丸峠を過ぎ、大菩薩峠に全員到着した。

ここからはとても良い道になったので、みんなぐんぐん飛ばす。最終的に、予約時間を5分遅れただけで福ちゃん荘に到着した。

小金沢山を過ぎた頃からゴロゴロいいしたが、最後まで降られることなく歩き通すことができて良かった。みなさま、お疲れ様でした。

記：網干



高原の花マツムシソウ

《参加者の感想》

今日は山友の友人を伴って、大菩薩連嶺の中心部、小金沢山へ。友人は1週間前から緊張しまくっていたといていたが、性格が手伝って、みんなにすっかり溶け込んでいたようで、わたしもうれしかったです。

小金沢山の行く前の印象はあんまり聞いたことがない山だけど、どんな山だろう？ 行ってみたらそこは2000mの庭園で、草原もあり、富士山も近くに見えて、それでいて、コケがびっしり張っていて、倒木もたくさんあり、自然そのものでした。歩くルート上に倒木は多く、何度ASさんに「またぐ」といったことだろう。

想像とはまったく違って、それなりの距離もあり、達成感たっぷり。日帰りでこんな楽しませてくれる山はそうそうないだろうと思いました。ごろっとなったときは嫌な感じがして早く下山しなくちゃってスピードがアップ。結局雨には降られず、塩山駅で塩でざらざらになった顔を洗ったときは気分爽快でした。

AMさんも終始笑顔で楽しかったってしてくれたのでそれがなによりうれしかったです。山の景色やルートは変わらなくても仲間が変わるだけで山はもっともっと楽しくなりますね。今回も頼りにならない班長でしたが、みなさんのおかげで学習させてもらってます。楽しい一日、友人もきっと満足なものだったと思います。Aリーダー、参加者のお姉さま方、お兄様方、このたびもたくさん笑わせていただき、ありがとうございました。 記：S.Kさん

先日はありがとうございました。ステキな仲間と行きたかった山に登れて充実した一日でした！

わたしのサポートなんてとんでもないです、ただ楽しかったです。壁がなくみなさんと話せたのは皆さんのウェルカムな雰囲気とベラさんのおかげだと思います！

休みの都合などで参加できないこともあるかと思いますがまた誘ってください。

記：S.Aさん

コースタイム

湯ノ沢峠(9:35)…黒岳(11:00-11:15)…川胡桃沢の頭(11:55-12:00)…牛奥の雁ヶ腹摺山(12:40-13:10)…小金沢山(13:50-14:10)…石丸峠(15:25-15:30)…大菩薩峠(15:55-16:10)…福ちゃん荘(16:35)

★剣岳（登山知識及び技術向上コース）（9月21日～23日）

参加者 会員(障害者1名、健常者8名)

おいた方が良かったのにとおぼえずにはいらなかった。

☆9月21日

夜行バスで富山に着き、富山地方鉄道で上市へ。そこからタクシーで馬場島に入る。冬も合わせると6回目の馬場島だろうか？ 様子はかなり変わったが、登山指導センターは変わっていないかった。

登山口の石碑を見ながら、いきなりの急登にかかる。ぐんぐん高度を稼ぐ。傾斜が落ちベンチのある所で小休止。小窓尾根のマッチ箱などが見えてくる。知らないうちに松尾平を過ぎ、また急登が始まる。1,200mの標識があり、私の高度計とほぼ同じだ。



大きな立山杉

その後、1,400mで狂いはじめ、1,600mも違っていった。私の高度計だけではなく、地図とも違っている。早月小屋でメンバーのSさんが確認したら、実際の標高に合わせているのではなく、展望の良い場所など休憩ポイントに標識を設置しているようだ。聞けば分かるが、設置する予定の場所の標高を事前に表示して

左手に猫又山が見え、その右手には、赤谷尾根から赤谷山、白萩山、白ハゲなどが見えてくる。「剣の歌」で歌われている「剣見るなら赤谷尾根でよ～」の赤谷尾根にいつか行ってみたいと思っていたのだが・・・。

小窓尾根は、ニードル、ドーム、マッチ箱、小窓の頭など岩峰がせり上がっている。30年ほど前に、春の小窓尾根を登ったことが思い出される。あのときは、下りに使った早月尾根がとてもやさしい尾根に感じ、目をつぶっていても歩けると思ったものだが、30年も年を重ねるとさすがにそうもいかない。数日前に痛めた膝をかばいながら登っていく。



剣尾根ドーム(中央)と小窓尾根の頭

右手に大日岳や奥大日岳が見えるようになり、富山平野や富山湾も見えるようになってきた。ユキサザやベニバナイチゴ、コバイケイソウの実などを楽しみながら登り、途中の池では、サンショウウオの子どもがたくさんいた。ルリボシヤンマと思われるヤンマも飛んでいた。

途中で剣岳山頂や早月小屋が見えたが、まだまだ遠い。それでも歩を重ねて展望の良い丸山

に到着。すぐ下に早月小屋がある。一夜の宿をお世話になろう。満員とのことだったが、我々は個室を使わせてもらい、布団一枚に二人程度で休むことができた。

☆9月22日

今日は、今回の登山の核心の日だ。早月尾根のしし頭、別山尾根のカニの横ばいなど、岩の難所があるコース、気をつけていこう。



早月小屋で朝を迎えたが、素晴らしい朝焼けが広がっていた。小屋の人も、ひさしぶりにきれいな朝焼けを見たと言っていた。小窓尾根はシルエットとなっている。

小屋の方にお礼を言い、山頂目指して出発する。早すぎると言われるが、私は寒くてカッパを羽織り、さらに羽毛服まで着込んでしまった。

次第に岩場が現れ、ロープや鎖を張ったところが次々に出てくるようになった。2,450mの小ピークに着くと、剣尾根が目の前に現れるようになる。小窓尾根のマッチ箱は、すでに同じくらいの高さになってきた。剣尾根は、剣岳で最も思い出深い岩尾根なので、「あそこが門だな」などと目をこらして見つめた。ドームの上で3人でテントに泊まった思い出も忘れることはない。剣よ、ありがとうと思わずにられない。

さらに2,600mを過ぎ、急な岩の道をぐいぐい登っていくと、いよいよ早月尾根の核心部、しし頭に到着した。ここは、片側がすっぱり切れた岩場を鎖を頼りにトラバースしていく。ち

よっと心配もしたが、全員無事に通過した。



しし頭を過ぎても、岩場の急登が続く。鎖もずっと付けられている。室堂が見えるようになると、別山尾根との合流点は近い。別山尾根で大渋滞が起きている様子まで見える。



別山尾根と合流し、山頂に到着した。振り返ると、遠くに槍ヶ岳も見えている。薬師岳や笠ヶ岳、立山三山、針ノ木岳、蓮華岳、鹿島槍から白馬岳の後立山連山もよく見える。手前には源次郎尾根とハツ峰もよく見えていた。



山頂での写真も順番待ちだが、SGさんが並んでくださっていた。私が写真を撮って戻ると、

すぐに集合写真を撮ることができた。SGさん、みなさん、ありがとうございました。



ハツ峰(手前の岩稜)と後立山(右端が鹿島槍)

山頂でゆっくりした後は、いよいよ別山尾根の下りとなる。岩の道を下っていくと、順番待ちとなっている。これはカニの横ばいの順番待ちだ。30分ほど待って順番が来たが、登りで使うコースのカニの縦ばいは2時間近く待ったようだ。下る順番も決めていたので、順調に下ることができた。ハーネスにシュリングとカラビナをかけ、鎖にカラビナをかけて下ることにしたので、安心して下れる。私は、ビデオを撮ったり、写真を撮ったりして下っていく。



別山尾根の核心部カニの横ばい

カニの横ばいの後は、長い梯子があった。さらに下ると避難小屋跡があり、その後も、平蔵のコルを過ぎ、平蔵の頭への気持ちよい登りとなる。ケルンのあったところで長い休憩を取り、さらに下って、前剣への登り返しとなる。ここも急な登りだった。登った後は、山腹のトラバース。片側が切れ落ちてスリルのある所だ。

前剣で休憩し、一服剣を目指してぐんぐん下っていく。落ちる危険のない岩場の下りは、手

を使わずに下るとバランス感覚を養う練習になるのだが、女性陣はすぐに止めてしまったようだ。



平蔵の頭への鎖場を登る

一服剣からクロユリのコルへ行き、剣山荘によらずに剣御前小屋を目指して山腹をトラバースしていく。しっかり色づいたナナカマドや紅葉したチングルマが美しい。剣御前の小屋について、みんなホッとしている。早月小屋から10時間半ほど行動したのだから疲れて当たり前。お疲れ様でした。

☆9月23日

朝起きると、雲に包まれて剣岳が見えなかった。これでは剣御前に行っても剣岳が見えないので、まっすぐ帰ろうと思ったが、次第に雲が消えていき、完全に晴れ上がった。朝日を浴びた剣岳が剣沢小屋からしっかりと見えている。これでは、このまま帰るのはもったいない。朝食後、剣御前手前のピークを目指して登り始める。振り返るとすぐに槍穂高連峰が見えてきた。

私は、やはり剣御前まで行かないと剣岳を正面に見られないので、ひとつ走り剣御前まで行くことにする。

やはり来て良かった。正面にどっしりと正座したような剣岳が見えている。富山方面には雲海が広がり、ブロッケンも見えていた。後ろ立山の山々や剣沢もよく見える。朝日にチングルマの綿毛が輝いている。素晴らしい展望を楽しんで、みんなが待つ小ピークへ急いで戻った。

剣御前小屋から雷鳥坂を快適に下る。下には

素晴らしく紅葉したところが見える。室堂全体としては2分程度の紅葉だと思うが、所々しっかり紅葉していて楽しませてもらった。



剣御前小屋からみた朝の剣岳

雷鳥沢のテント場を過ぎ、最後の階段を上って、硫黄臭の激しいところを通り過ぎるとみくりが池温泉に到着する。3日間の汗を流してさっぱりする。室堂からトロリーバスやロープウェイ、ケーブルなどを乗り継いで扇沢へ。タクシーで信濃大町駅に着き、食事を取ったが、少しせわしくすぐに駅に戻って、ホームであずさを待った。1日に1本しか信濃大町駅に止まらない特急に乗り込んで、帰途についた。

記：網干



剣御前から紅葉の道を室堂へ向かう

《参加者の感想》

今年のわたしの目標であった剣岳に行く日がきた。荷物は軽くといわれていたので、体重計にのせながら軽量化を図ったが、10キロをきれなかったのが残念でした。この日のためにわたしは毎週のように山に通った。雨の日は体育館をぐるぐる走っていた。それくらい思いは熱く、岩と雪の殿堂に向かった。

登山口に「試練と憧れ」という石碑があった。ますます興奮してくる。急登で有名な早月尾根だが、道も整備されており、トレランの人が走って追い越してゆく。軽装備なので日帰りなのだろう。

早月小屋につく間に池塘があり、そこにはサンショウウオがたくさんいた。ギンヤンマもたまごを植え付けに来ている。そこに大人が群がっている。「なんか平和ですね」といったらNさんがとてもうけてたようで笑い転げてました。変化のある早月尾根、小屋が見えてからが遠いのはどこも同じ。

高度を上げるうちにどんどん岩岩が現れてくる。人を寄せ付けないそんな雰囲気だった。リーダーが三の窓、小窓、マッチ箱、白ハゲ、赤ハゲといろんなことを教えてくれる。とにかくネーミングがおもしろい。剣の歌の意味がわかったような気がしました。



剣岳山頂付近から見た立山、薬師岳方面

翌日、さあ今日はあこがれの剣にむかう。リーダーは朝から笑わせてくれる。緊張を和らげてくれているのだろうか。ありがたい。少しのアップダウンが続くと岩と鎖が現れる。いよいよ。剣岳の背中にのったようだ。鎖場はほとんど使うことなく登れる。下りはこわいなと思いながら高度をあげていく。山頂に立った時は感無量。やった～、剣岳初登頂。仲間と握手をかわす。

登ったら降りなければならない。カニのよこばいが待っている。渋滞中。カニのヨコバイでは足場はしっかりしていたが、なにが起こるか

わからないのでセルフビレイをしながらトラバースしていく。高度感はすごい。人はどうしてこんなところを歩きたがるのだろう・・・そういうわたしもだが。

本剣の次に前剣が現れ、そのあとに一服剣。よくそういう名前をうまくつけたもんだと感心してしまう。岩から離れ、剣御前小屋まではハイマツ地帯をやや藪こぎみたいに歩く。変化のある山であきない。疲れがでてきた頃、前を歩いていた仲間から小屋がみえたという声。今日もよく歩いたな～と自分に感心してしまう。

長男に剣岳登頂成功とメールをしたら「おめでとう、満足せずさらなる高みにむかいなはれ」と返信がくる。ひと目も気にしないで泣いてしまった。どうも年をとると涙腺が弱くなって仕方ない。

目標だった剣岳の山行が終わった。次なる目標はどこにおこう。山にいこう、という気持ち

がわたしの元気の素。面白くて愉快で厳しさも兼ね備えているリーダーに感謝いたします。ありがとうございます。そして一緒に苦楽をともにし、一緒に歩いてくれた仲間に関心からありがとうございます。記：S.K さん

コースタイム

9/21 馬場島 (7:40) … 1,200m (9:20) … 1,550m (10:20-10:40) … 1,920m 三角点 (11:40-12:00) … 早月小屋 (13:50)

9/22 早月小屋 (5:30) … 剣岳山頂 (9:25-10:00) … 2,840m ケルン (11:30-12:00) … 前剣 (12:30-12:40) … 一服剣 (13:35-13:45) … 剣御前小屋 (15:55)

9/23 剣御前小屋 (7:15) … みくろが池温泉 (9:35)

★双子山(9月29日)

参加者 会員(障害者2名、健常者6名)

会員外(健常者1名)

天気予報よりも雲の多い天気にはきもきしながら小田急から御殿場線に乗り換える。御殿場線の車窓からは、富士山がよく見えていた。

御殿場駅からタクシーで御殿場口新五合目まで行く。吉田口の五合目と違って、なんて質素なのだろう。すでにしまっていたが、ここには一つの売店と小さなトイレしかない。売店の前で自己紹介をして歩き始める。

帰りの道となる幕岩方面への分岐を左に見てさらに登っていく。閉まっている売店が一つあった。自動販売機の飲料は駐車場から近い割には、北アルプスの主な山小屋と同じ料金で、高く感じた。



双子山

登山道の脇には、大きなフジアザミがまだ咲いている。足下は、火山岩の砂地となっていて、少し歩きにくい、富士山の山腹を見ると、ほとんど植物が育たない殺伐とした風景が広がっている。水分が非常に少なく、ざらざらと風で流れ落ちるような地質で生きられる植物はほとんどいないのだろう。こんな厳しい自然の中でも、草むらとなってぽつんぽつんと生育している植物には、力強い生命力を感じる。

樹木が全く生えないので、展望は素晴らしい。箱根の山や山中湖周辺の山々、そして雲をかぶっている丹沢の山々も見えている。富士山は時折雲に隠れるものの、赤茶けた山肌を見せてくれている。

H君は、登りが苦手なのだろうか？それともおなかがすいていたからなのだろうか、何度も立ち止まっていたが、お父さんやTさんに手を引かれて徐々に順調に歩くようになってきた。Aちゃんは、すこぶる元気だ。



Aちゃんは今日も元気！

砂地の急坂を登ると双子山下に着く。ここから下双子山(二つ塚下塚とも言う)に登る。振り返ると富士山がその姿の全てを見せてくれた。下双子山に着くと、富士山が雲に隠れそうなので、すぐに集合写真を撮る。少し山頂付近が雲に隠れてしまったが、これ以降、富士山は2度と山頂を見せてくれなかったのも、この判断は大正解だった。

山頂も火山岩の砂礫地だが、腰を下ろして昼食タイムとする。Yさんがミカンを1個ずつ全員に振る舞ってくれた。Yさん、ありがとうございます。

昼食後は、少し上り坂をがんばり、幕岩上に到着する。休憩せずそのまま幕岩方面に下っていく。最初はなだらかな道だったが、次第に樹林帯となり、斜面もきつくなって滑りやすくなる。AちゃんもH君もがんばり、さらにMさん、Kさんも無事に幕岩に到着。ここで休憩し、新五合目を目指す。



双子山上塚と宝永山、富士山

最初は、片側が切れたところもあったが、次第に歩きやすい道になる。ツタウルシの紅葉がなかなかきれいだった。H君もAちゃんも元気で、走り始めるので、一緒に走ることにしてしまった。そのうちに、けんかも始まり、いろいろあったが、全員、無事に新五合目に到着。



双子山下塚にて

新五合目に着くと、他のグループの人が、サルナシの実があるというので、教えてもらおうと、小さな実がたくさんあった。中の実を食べてみると、まさにキウイフルーツ、最高においしいごちそうをいただきました。

二人の子は、元気に周囲を6周も走っていた。ようやくバスが来て、席に座ると、二人ともぐっすりと眠りに落ちていた。 記：網干

コースタイム

御殿場口新五合目(10:40)…双子山(下塚)(12:10-12:45)…幕岩(13:35-13:50)…御殿場口新五合目(14:55)

★栗駒山(10月5日～6日)

参加者 会員(障害者1名、健常者5名)

☆10月5日

くりこま高原駅からタクシーで民宿秣森に向かう。民宿に着くと、まだチェックインの時間でないが、食堂で持ってきた昼食を食べさせていただくことができた。それだけでなく、お茶やコーヒーまで振る舞っていただいた。オーナーからはいろんな話を伺うこともできた。五年前の宮城内陸地震では甚大な被害を受け、半壊だったらしい。半壊と言われても住み続けることはできず、立て替えたそうだ。建物は新しく、とてもきれいで、コーヒーもドリップだ。

昼食後、世界谷地に歩いて向かう。名前がすごいが、この付近は、終戦後岩手県南東部に住んでいた人たちが開拓して住むようになったところらしい。秣森の方もその一人だ。



第一世界谷地の湿原を歩く

まずは車道歩きだが、道路にブナの実がたくさん落ちている。熊たちはこの小さな実を一生懸命に拾って食べているのだろう。世界谷地の駐車場からは、まだ紅葉していないが、色が淡くなってきた柔らかい緑の林を歩いて行く。第一世界谷地の湿原は、ドウダンツツジの紅葉が素晴らしい。できればブナの大木を見たいと思い、さらに奥まで登っていく。大地森コースの分岐まで歩き、そこから引き返す。ブナの木はまだそれほど大きなものがなかったが、それで

もかなり大きなものもあった。



気持ちよいブナの林を歩く

帰りは、通行禁止になっているが行けないことはないと聞いてきた第二世界谷地経由で帰ることにする。第二世界谷地は、木道が古くて、三分の一くらいが折れていたが、歩けないことはない。

民宿に戻って、風呂に入り、夕食後は、明日に備えて早々に横になった。

☆10月6日

民宿の方からイワカガミ平まで送っていただく。イワカガミ平に着くと、霧が晴れ、東栗駒山方面の紅葉が目飛び込んでくる。山全体が真っ赤に燃えているようだ。秣森の女将さんも「あまり来ないので」と写真をたくさん撮っている。



イワカガミ平から見た東栗駒山方面

送っていただいた民宿の方にお礼を言い、東栗駒山を目指して登り始める。中央コースとしばらく同じ道を行くのかと思ったら、すぐに分岐だった。通り過ぎてしまったが、教えてもら

ってすぐに引き返した。



登るにつれて紅葉が深まる

この道は、赤土で滑りやすく、浸食のせいかえぐられて段差が非常に大きい。何力所もロープが垂れ下がっていた。しかし、周囲は紅葉の海のようなだった。紅葉の海に潜って泳ぐかのように、登っていく。



東栗駒山山腹の紅葉

時間がかかなりオーバーしていたが、ようやく沢に到着する。沢の対岸もきれいに紅葉している。沢に出会ったところで休憩し、沢を遡っていく。一枚岩のナメとなって流れているので、沢登りをしているようで楽しい。全盲のAさんも順調に付いてくる。Kさんはこういうところは不慣れだが、HNさんがサポートして順調に登ってくる。

紅葉は、この沢を渡ってからが本番だった。一時的だが霧が晴れて栗駒山の山頂を見せてくれる。手前には真っ赤に色づいたカエデがあり、周囲の山腹も見事に色づき、赤、黄、緑の三段染めとなっている。

少し登ると、再び霧に包まれてしまった。傾斜も緩くなり、木々も低く、晴れていたら展望

が素晴らしいところだっただろう。霧が深いので、雨具を付けて歩く。岩も少し出てきたところを超えていくと、東栗駒山に到着した。後から追いついた人が、Kさんのポンチョの背中の膨らみを見て「赤ちゃんですか？」と聞かれたのには、みんな大笑い。その人が、ガイドブックに出ていた東栗駒山から栗駒山方面の写真をを見せてくださる。その紅葉は、真っ赤な帯が二重にあるような、素晴らしい紅葉だった。今日、晴れていたらそんな風景が見えたのだろうと思うと、残念な気持ちになったが、紅葉はこれからもたっぷりと楽しませてくれた。



栗駒山山頂と紅葉

まだまだ続く紅葉の尾根を緩やかに登っていく。霧が晴れ始め、山頂が見えてきた。右手には雲海の上に焼石岳も見えている。笹森方面



紅葉の山腹を背に

への分岐を過ぎ、草紅葉の草原を過ぎると、栗駒山への最後の登りにかかる。左下には、中央コースの尾根の紅葉やそのさらに右手の尾根の紅葉が、くっきりとした姿を見せてくれる。山頂の左手奥には、もしかしたら鳥海山かもしれないと思われる青い山が一瞬姿を見せてく

れた。



山頂に全員そろい、昼食タイムとする。7年前の7月に来たときは、雨だったため、我々以外誰もいない山頂だったが、今回は大混雑の山頂だった。集合写真を撮って産沼コースの下山にかかる。山頂付近は、紅葉する木が少ないことと、時期的にもう紅葉が終わっていることもあり、静かな登山道が続く。しかし、次第に紅葉が深まり、霧の中でも目を見張る美しい部分が出てくる。



シラタマノキの実やマイヅルソウの実などを楽しみ、さらに下ると、産沼があった。産沼の周囲は紅葉する木が少ないようで、緑がほとんどだった。さらに下って、左後ろに振り向くと、霧が晴れてものすごく美しい山腹が広がる。霧が晴れると須川コース方面も見える。須川コース方面は、赤よりも黄が多いようだ。

★谷川連峰（登山知識及び技術向上コース）（10月12日～13日）

参加者 会員(健常者5名)

階段を下り、川を渡って案内板を見ると、そこは三途の川だった。とうとう渡ってしまった。湿原の木道に飛び出すと、須川コースと合流する。名残が原の湿原に付けられた木道を歩く。ここもはっとするような色づきの良いナナカマドが楽しませてくれる。最後まで美しい紅葉を楽しみながら下ると、須川温泉に飛び出した。源泉から流れ出した沢は、少し熱いくらいだった。露天風呂に入って汗を流し、無事の下山を祝った後は、バスに乗り込んで、一ノ関駅を目指す。



とにかく、赤、黄、緑の三段染めの紅葉を堪能できた山でした。私自身がこれまで見た紅葉の中で、最も美しかったのは間違いのないと思います。栗駒山の紅葉に乾杯！ 記：網干

コースタイム

10/5 民宿 秣森 (13:10) … 世界谷地 P(13:40) … 第一世界谷地 (13:50) … 十字路 (15:10-15:20) … 世界谷地 P(16:30) … 民宿 秣森 (16:55)
10/6 イワカガミ平 (7:30) … 沢 (8:45-8:50) … 東栗駒山 (9:40-9:50) … 栗駒山 (10:50-11:25) … (産沼経由) … 須川温泉 (13:45)

☆10月12日

日本海を進む低気圧がオホーツク海に進み、

今日から冬型気圧配置になる。関東は良いが谷川連峰は冬型の影響を受けて、冷たい風雨になる可能性が高いと予想していた。ところが、早朝、土合山の家を出ると快晴となっている。おや、強い冬型にはならなかったのかな？と思ったが、この好天は寒冷前線通過後にポカッとできた気圧の安定部の影響で広がった疑似好天だったようだ。旧道を歩いていて、確かに好天だったが、清水峠方面にでていた雲が冬型の影響ではないかなと少し気になっていた。



マチガ沢出合から見た谷川岳

しかし、マチガ沢に着くと素晴らしい天気の下で、紅葉した木々が美しい岩稜が目に入る。まずは沢沿いに緩やかに登り始める。マユミの実がとてもきれいだった。急登が始まり、マチガ沢がよく見える展望の良いところ来到ると、一人の女性が立っている。マチガ沢に人が大勢いるが、その女性が「NHKの番組作りです」と教えてくれた。バリエーションルートから百名山を目指す番組を制作中らしい。番組制作の人たちはシンセン沢方面に登っていった。



巖剛新道の鎖場を登る

この頃から、雲行きが怪しくなり、山頂部を

隠していった。それでも、美しい紅葉を堪能しながら登っていく。しかし、巖剛新道は、次第に急傾斜になり、岩場が現れてくる。幅はあるがロープなどは張られていない岩場は、片側が切れて滑りやすく、山側の木につかまりながら慎重に進む。Sさんがつかまった木が折れ、転んだときにはひやっとしたが、手を擦りむいただけで済み、ホッとした。

その後も、岩場が連続して出てくる。しかし、鎖が付いていたり、はしごがあったりで、比較的安心して登れる。西黒尾根との合流点、ラクダのコルも近づく。しかし、雲はどんよりと垂れ込めてきた。NHKの人たちは大丈夫かと心配になる。



西黒尾根上部を登る

西黒尾根は、霧に包まれた中を登る。いくつかの岩場や鎖場を超え、傾斜が落ちると肩の広場に着く。トマの耳まで登って昼食タイムとする。山頂に着いたとき、一瞬霧が晴れてこれから向かうオキの耳への稜線が少しだけ見えた。



谷川岳山頂トマの耳にて

肩の小屋も一瞬だけ見えたが、すぐに深い霧が覆い隠していった。

人の大勢いるトマの耳を後にオキの耳に向かう。オキの耳も人が多かった。ここから北部への稜線は人がぐっと減る。雨も降り始め、ここから風雨にさらされて歩くことになる。山は、そこにいるだけで危険だから、最も安全な登山は速く歩くこと(速く歩くためには体力作りと技術や知識の習得が必要になる)と言われるが、このような風雨の時は、まさにそれが重要で、休憩して風雨に打たれて体温を奪われるよりも、ゆっくりでも良いから歩き続けた方が体調を崩しにくい。そんなことも考慮し、頻繁な休憩は取らず、山頂などで小休止を取るだけで歩き続けた。



降雨の中、国境稜線を歩く

小さな避難小屋がある一ノ倉岳を過ぎ、茂倉岳で北に進路を取る。晴れていたら素晴らしい展望が広がるはずだが、今日は30mくらい先までしか見えない。西風が情け容赦なく、左のほほに吹き付ける。眼鏡をしているCさんとSさんは、眼鏡が曇って足下がよく見えないようだ。Sさんは外して歩いたが、Cさんは外すと見えないということで、眼鏡をかけて歩いている。私は、過去にそういう経験をしていることと写真を撮る関係で、連続装用のコンタクトをしている。

風雨の中で、最後のピーク、武能岳に到着する。あとは、蓬ヒュッテに向かってクマザサの草原を下るだけだ。テントが見えると、その先に蓬ヒュッテが見えた。小さく素朴な蓬ヒュッテで一夜を安心して過ごすことができる。山小屋は本当にありがたい。



武能岳山頂にて

☆10月13日

夜半、外に出てみると、深い霧と雨で何も見えなかった。今日は、馬蹄形縦走の後半部、朝日岳から白毛門に縦走する予定だが、昨日の風雨の中の行程でCさんが疲れたこともあり、みなさんと相談し、土合へ下山することにする。



蓬峠から新潟県側の山々を見る

天気も悪いだろうと思って外に出てみると、霧が晴れて素晴らしい風景が広がっている。



蓬峠からセツ小屋山方面に向かう人たち

遠くに苗場山も見える。まだ風も強く、雲も多いが、視界が十分にあるので、写真を撮るために少しだけセツ小屋山方面に登ってみる。遠くに苗場山や仙ノ倉山、平標山などが見え、セツ

小屋山と大源太山も見えていた。ただ、巻機山や谷川岳はまだ雲の中だった。



蓬ヒュッテにて

蓬ヒュッテに戻って、土合方面に下り始める。気持ちの良い草原を下る。水場で水を汲み、コーヒータイムとする。SさんやNさんが持ってきたコーヒーをいただく。体が温まり、ありがたい。



蓬峠から滑りやすい岩場を下山する

武能岳方面や清水峠方面の展望を楽しみながら、草原の中やちょっとした岩場を下っていく。清水峠からの登山道(旧国道)が合流すると、すぐに白樺避難小屋に着く。昔は幽霊を見た人がいるそうだが、今はいないだろう。少し先で、新道と旧道に別れていた。旧道の入り口に木が横に置かれて通せんぼをしていたが、「雨の日は滑りやすいので注意」と書かれていただけなので、旧道を行ってみることにする。

しかし、少し歩いたら、左側が切れて、足下が外傾し、草付きでつかまるところもない滑りやすい土の道に出た。滑り落ちたら助からない。ここで、新道に変更して引き返そうかと話したが、少し行って様子を確認することとなる。私

がトップでそこを超え、その先を見るとそれほど難しそうではない。その部分だけが問題だが、すでにNさんが通過していた。登山経験の少ないCさんをザイルで確保して、全員通過する。



武能岳を望む

次に現れたのは、武能沢の対岸にある5mほどの垂直の岩場。ここは全員、ザイルで確保するが、ロープが垂れていて、問題なく通過する。さらに、また滑りやすい片側が切れた土の道が現れたので、ここはロープをフィックスして通過する。

ここを過ぎるとしばらくは悪いところがなくなった。登山者も何人が登ってきた。ただ、気の抜けないところは何カ所もある。武能岳から伸びる大きな尾根を回り込むと、幽の沢や一ノ倉沢の岩場も見えてきた。その後も、ロープのたれたところがあったが、問題なく通過する。



一ノ倉沢

そして、芝倉沢に着き、ホッと一息。コーヒーや紅茶を飲んで、無事にここまで来たことを喜ぶ。堅炭岩や武能岳方面は紅葉が美しい。芝倉沢からすぐのところが少し崩れていたが、それから先は、林道となり、安心して歩ける。S

さんとKさんの話は、ここまでもそうだったが、ずっと止まらなかった。

幽の沢を過ぎ、覆い被さるようなノ倉沢を見て、ロープウェイの駅へと向かう。土合橋の駐車場に車を止めていたCさんに乗せていただいて、ユテルメ谷川へと向かった。予定通りのコースの方が安全だったが、体力を必要とし、エスケープルートは、体力的には楽だが、危険度が高かった。下りは、新道を使うべきだったと反省した山行でした。 記：網干



《参加者の感想》

10月連休、もっとも紅葉が綺麗といわれるこの時期、谷川連山縦走にはりきってむかう。朝は澄み渡る青空で、ラクダのコルでは日焼け止めを塗ったくらい。しかし天気が変わりやすいといわれる谷川岳。あっという間に天気が変わっていく。リーダーが冬型気圧配置といったことの意味がよくわかった。

山頂へ着いたら雨が降り出し、縦走が始まった時はすでに風雨にうたれていた。遠足気分の服装の人がたくさんいたが、あの人たちはあれからどうしただろうと心配したほど。オキの耳を過ぎて、縦走の始まり、もちろん眺望はない。近くの草紅葉だけ見ながらひたすら下る登る。滑る岩、笹の下に隠れている浮石、空気もまるで冬だった。風が強いから温度も下がる、休みたいけど動かないと体温が下がるから早く動きださないといけない。それを何度か繰り返し、なにも見えない中、蓬ヒュッテの青い屋根を見たときはほっとしました。

翌日は昨日見えなかった山並みがよくみえている。ずっと遠くの山まで見える。あの稜線、歩いてきたんだ、やっと昨日歩いてきた道が見えてうれしかった。馬蹄形をいくという愛知の健脚な方たちを見送り、下山ルートへ。その下山ルートがすごかった。ヤマケイオンラインの現地情報に「降雨により崩壊が進み、常に地形が変化しています」とあったことを思い出す。以前このルートを歩いたNさんも全然違って見えるといていた。Aリーダーのような経験豊かな人がいなかったらあの険しい旧道を歩き通せなかっただろう。縦走へ向かわなかったことで山ではなにが起こるかわからない、なにが起こっているかわからない、どんなことにも対応できるような技術を習得していかなければならないんだ、ということがわかりました。リーダーにロープワークで最低必要なのはエイトノット、ブーリンノット、と教えていただいた。それよりもわたしはシュリング、カラビナを持って出かけなかったことを反省しなければならない。もしかして？と余計に持ってきていたCさんにお借りできたことはとてもありがたかったです。

山で無事に帰るためにはなにが必要か、それを身をもって経験できたことは貴重な体験でした。冷静に着々とことを進めていくリーダーは改めてすごい人だなと思いました。リーダーならび参加者の皆様、いろんなところで力、勇気を貸していただき、ありがとうございました。

記：S.Kさん

コースタイム

10/12 土合山の家(5:30)…マチガ沢出合(6:35-6:45)…ラクダのコル(9:05-9:20)…トマの耳(10:50-11:20)…オキの耳(11:35)…ノ倉岳(12:45-12:50)…武能岳(14:55-15:00)…蓬ヒュッテ(15:40)

10/13 蓬ヒュッテ(6:35)…白樺避難小屋(8:00-8:10)…芝倉沢(10:35-

11:15) … ノ倉沢出合 (12:30-
12:50) … 谷川岳ロープウェイ

(13:45)

★神山(11月9日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)

天気予報は、数日前まで今日は晴れ時々曇りだったが、前日くらいから曇り時々晴れとなっていました。低気圧の前面にできる雲が予想より広がっていたので、予報が変わったと思うのだが、やはり1日中曇りで、山頂付近は霧の中だった。

先週は湿性花園のハイキングで箱根湯本駅を訪れたが、まだ紅葉が始まったばかりだった。だが、今回は、駅付近もかなり紅葉が進んでいた。登山鉄道で強羅まで行き、強羅からケーブルに乗り換える。乗り換え場所までは1分もかからないが、大勢並んでいるのとキップを買うので、時間を要し、予定より1本遅いケーブルとなった。

ケーブルを終点の早雲山で下り、ここから歩き始める。いきなりの登りとなるが、順調に登っていく。次第に紅葉した木々が増えてくる。主に赤色が多いが、時々黄色もある。



紅葉のきれいな登山道を登る

登るにつれて、落ち葉が増え、登山道が赤い絨毯を敷き詰めたような美しさになる。この晩秋の時期でなければ見られない貴重な風景だ。

登っていくと硫黄のにおいが強くなり、シュ

ーシューという音が聞こえるようになる。大涌谷から蒸気を吹き出す音だろう。さらに登り、駒ヶ岳に通じるお中道の分岐に着いたところで、昼食時間とする。もうこの付近も霧に包まれている。



美しい！？

大涌谷への分岐を過ぎ、さらに登っていく。所々、落ち葉が織りなす秋模様が美しいところがある。蜘蛛の糸も多く、霧の日は、糸に付いた水滴が美しい。冠ヶ岳への分岐を過ぎ、最後の登りをがんばると神山に到着する。やはり、山頂には人が多い。こけの先端に付いた水滴の写真を撮ったり、集合写真を撮ったりして、下山にかかる。



紅葉した落ち葉の絨毯

神山からの下りは、滑りやすい石の多い登山道となる。こちらは、早雲山方面と違って、紅葉した木々が少なく、紅葉した落ち葉もない。植生がかなり違うのだろう。



蜘蛛の糸に付いた水滴

当初の計画は、駒ヶ岳に登って、ロープウェイで箱根園に下りる予定だったが、歩いて下りようという意見が出たので、みなさんの意見を聞き、防ヶ沢分岐から下りることにする。

この道は、歩く人が少ないのだろう、笹藪もあった。それでも道に迷うようなところはなく、急坂も順調に下っていく。傾斜が落ちてようやく防ヶ沢の車道に飛び出した。ここから、ピクニックガーデンのバス停に向けて車道を歩くが、この車道には歩道がないので、ここが一番危険箇所だった。登山道のある防ヶ沢にバス停を作って欲しいものだ。



コケに付いた水滴

渋滞で時間がかかったが、箱根湯本からはそれほど渋滞はないようだ。しかし、我々は時間が確実な箱根湯本駅からの電車で帰ることにする。先週、駅でけがをした際、お世話になった駅員さんにお礼を言う。駅員さんは、「こちらこそ、事故が起きないような設備の導入を検討したい」と言ってくださった。駅員さんの真摯な姿勢に感動して、電車に乗り込み、小田原駅に向かった。

記：網干



神山山頂にて

《参加者の感想》

天気予報の晴れマーク＝富士山と期待して、新宿から箱根へ向かう。どんよりしている、あれ？どうして？なんで？と思いながら登山開始。

紅葉は早雲山近くは綺麗だったが登るうちに葉がおちて、それでももみじの絨毯が綺麗だった。ずっと薄曇りの中での登山でしたが、それはそれで味わいのある、晩秋らしい山行でした。

蜘蛛の巣が水滴に濡れてあちこちで光っている。晴れていたら見えないものが曇っていると見えてくる。おもしろい。孫たちがいたら、さぞかし大騒ぎするだろうと想像した。木の枝についている水滴が綺麗でした。すごいものを発見した感じ。

富士山はいったいどこにいるのかわからないまま、ガスの中を歩く。歩きながら富士山でどこだろう？と聞くと小賀野さんは 11 時の方向って教えてくれる。11 時の方向って？と考えながらそれでも歩く。

箱根の道は混むことは以前経験済みだが、わたしたちはすっかりはまってしまった。夕暮れの中でバスから見る景色も暖色系の明かりが綺麗で、ほっこりしてよかった。とても心が休まる、心温まる山行でした。ありがとうございました。

記：S.Kさん

コースタイム

早雲山ケーブル駅(10:15)…駒ヶ岳への分岐

(11:45-12:15)…神山(13:10-13:25)…防ヶ沢分岐(14:10-14:15)…防ヶ沢(15:25-

15:30)…ピクニックガーデンバス停(15:50)

★本仁田山(11月17日)

参加者 会員(障害者7名、健常者11名)
会員外(健常者3名)

今日の本仁田山は、何年ぶりかのリーダーとして参加する山行である。

久々に20人を超える参加者で電車の中からぎやかにおしゃべりの花が咲いていた。本仁田山は、奥多摩では、数少ないバスを使わなくても登山口にでられるアプローチの良い山である。駅で声出しをし、初参加の方の自己紹介があり、ストレッチを済ませて、3班に分かれて出発。



急な登山道を登る

駅から車道を避け、せせらぎの音を視障者の方達にも楽しんでもらおうとすぐ川沿いの遊歩道におりは、したものの黄色い声でそんなことは、どこ吹く風。古民家がぽつぽつとある林道を40分程歩きうっすらと汗ばんできたころ右側に本仁田山への標識があり、登山口に到着。身支度を整え10分ほど休憩をとり、出発。

いきなり急登となって来た頃、後ろからあれは、御前山だよと声が飛ぶ。この先いくつかの山を教えてもらうことに成る。地図上では、近

くにあることは、わかっているもどの山の事がどうもわからず、勉強不足を反省する。広葉樹の明るい尾根を上を見ると首がいたくなる程の急坂をしばらく登っていくと、少しずつ班のペースが乱れがちになってきたのでしばし休憩をとり、行動食や水を補給し、呼吸を整えた。ゆっくりしたペースで頂上に全員無事12:50分到着。遅めの昼食をとり、鳩ノ巣の駅へと下山。



うっすら色づいた木々

くぬぎやぶなの落ち葉が厚く登山道を覆い足元が落ち葉の影になり、その下にある根っこや石ころに足をとられる人もいた。そんな中でもおしゃべりは、止まることをしらない。



笑いがはじける本仁田山山頂にて

秋の透きとおった空気・色づいた山並・仲間をきづかう声掛け・はちきれそうな笑顔、そんなすばらしい空気に囲まれている幸せな気分を十分に味わいながら、気が付くともう眼下に

町が見え、あたりは、夕方の様相へと移っていた。

リーダーとして参加して初めて下見からサポート体制など多くの人達の協力がなければなし得ない事を実感しました。参加して下さった皆様達に深く感謝です。ありがとうございました。

記：中村浩子



落ち葉の多い登山道にて

《参加者の感想》

今日は東の空がオレンジ色に染まる中、新宿駅に向かう。新宿は登山者らしき人がたくさん、その中で顔なじみの仲間を探す。奥多摩へいくホリデー快速は満員。みんなこの山にいくのだろう。

本仁田山へは傾斜のきつい山道を九十九折しながら歩く。昔の作業道のように容赦なく傾斜がある。空気は冷たいが額から汗が出てくる。

山頂で昼食。Tさんの美味しい煮物をいただいた。大勢で食べると美味しい。

14:30頃、太陽が西に傾き、木と木の間から光線が同じ方向に放っている。この時期ならではの情景。この雰囲気、よいな～と思いながらやっぱりおしゃべりもかかさず、鳩の巣駅にむかう。今日もよくしゃべったし、よく笑って、よく歩きました。

「みなさん～、こちらが～」って楽しませてくれたリーダー、お疲れ様でした。楽しい一日、ありがとうございました。

記：S.Kさん



カラマツの紅葉

コースタイム

奥多摩駅(9:40)…安寺沢(10:30-10:40)…
本仁田山(13:00-13:30)…コブタカ山
(14:00)…大根ノ山ノ神(15:20)…鳩ノ巣駅
(16:20)

※大岳山は雨のため中止となりました。

自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第5回北アルプス薬師岳）

ぼくは、薬しだけに登って思ったよりもつらかったです。頂上に行ったけど、景色が見えなくて残念でした。

また、天気がいい日に行きたいです。山小屋は、せまくてかたむいていたけど楽しかったです。

8月に雪遊びはすすしくて気持ちよかったです。またよろしくおねがいします。

S.K 君

講習会報告

★岩登り技術講習会（日和田山）（9月7日）

参加者 会員(健常者4)

も大丈夫だろう。

記：網干

高麗駅に向かう電車のフロントガラスが濡れている。止んでくれるか心配だったが、高麗駅に着いた時は、ほとんど降っていなかった。

全員揃って岩場に向かう。線路を渡ってすぐのところにコンビニができていて、とても助かった。このコンビニはとてもありがたい。これから何度も利用しそうだ。



濡れた滑りやすい岩場を登るKさん

岩場に着くと、やはり雨模様の影響で来ているパーティーはいつもよりかなり少なかった。しかし、女岩の南面はすでに使われていたので、まずは男岩の南面を使うことにする。

Cさんが岩登り初体験なので、まずはロープの結び方から練習する。8の字結び、マスト結び、セルフビレーの取り方などを実際にやってもらう。飲み込みが良く、すぐに覚えてしまったようだ。

男岩南面のフェースは、特に下部が濡れていて滑りやすく厳しかった。最上部のフェースは乾いていたので、いつもと同じ難しさだった。全員が登ったところで、ロープを回収し、昼食休憩とする。

昼食の後は、女岩南面のフェースを登る。全員登った後、さらに右側のフェースを登る。Cさんもだんだん上手になってきた。これで剣岳



岩登り初挑戦のCさん

《参加者の感想》

岩場に着いてみると、先ほどまで降っていた雨の影響で表面が濡れていて、いかにも滑りやすそうでした。初めての岩登りなので期待と不安と心配が高まります。ロープやカラビナなどの基本的な使い方を教えてもらって、いざ！！

お手本をよく観察して同じように登ったつもりでしたが、ヘルメットは3回岩にぶつかり、3分の2くらいのところで左足ふくらはぎが震え出し、両足が何回か宙に浮いてしまいました。



日和田山の岩場にて

岩の上で他のグループの女性から、「その靴じゃ仕方ないですね。」と言われ、相当ひどかったなと実感しました。降りるときは腰を落とすように言われましたが、体が思うように動かないのと、自分で縛ったロープへの不信感で、結び目ばかり見ながらヨタヨタと帰ってきま

した。楽しかったです。この大きな岩で1本、少し小さな岩で2本経験しました。3本目のときは少し岩を見ながら登れたような気がします。Nさんから「後でビデオを観るといいわよ。」

と言われましたが、とてもそのような気にはなれません。体がフワッと浮くような快感が少しわかったような気がしています。

記：R.Cさん

ハイキング報告

★第7回ふれあいハイキング（箱根湿性花園）（11月2日）

参加者 会員(障害者3名、健常者9名)

関東南部にできた小さな低気圧の影響で、一日中厚い雲に覆われた1日だった。

箱根湯本駅に全員集合し、バスで仙石案内所前に向かう。今回は、7年ぶりに参加したMさんのご主人と再会できたことが感激だ。ずっと正会員を継続していただけたことに、ただただ感謝。



台ヶ岳を背に湿性花園を歩く

バス停でトイレを済ませ、湿性花園に向かう。湿性花園の入場料は一般が700円。障害者や65歳以上の方は600円。花の少ない時期だが、ウメバチソウなどが売られていた。

紅葉した周囲の木々を楽しみながら進むと、コムラサキが鮮やかな紫色の実を付けている。サイシュウイワギクや北アメリカ産の珍しいアミメヘシソウを見た後は、ダイヤモンド展を見る。園芸品種らしくどれも鮮やかな色をしている。

順路の入り口にあったカエデウォッチングラリーのパンフレットをもらって順路に沿ってカエデを見ながら、その名前を書き込んでいく。カエデは5つや6つに切れ込んだものだけと思っていたが、チドリノキやヒツツバカエデなど、切れ込みのない葉や三つ葉のものまであるのには驚いた。せっかく書き込んだのに、終点で正解をもらい忘れてしまった。



ひさしぶり参加のM夫妻

神代杉は、850年前に枯れた樹齢300年の杉の根株だった。池のようになっていたが、水の中の方が保存に適しているのだろうか？



コムラサキの実

植物復元区には、カワラナデシコやヤマラッキョウが咲いている。台ヶ岳もよく見える。歩

き始めは雲の中に姿を隠していた金時山も見えていた。

湿性花園を出て、左手に向かって車道を歩く。長い道を歩ききるのは無理とのことで、MYさんご夫妻とは、ここでお別れとなる。

ススキの草原まで往復するのを止め、湖尻に向かって仙石原を歩く。早川の畔に出ると金時山が見えていた。早川に架かる橋の上に立つと、大きな錦鯉が泳いでいる。優に 50cm 以上ある大物だ。



ここから背の高い笹のトンネルをくぐるように歩くとゴルフ場に出る。ここから湖尻まで左右にゴルフ場を見ながらの歩きとなる。長尾峠への分岐にある耕牧舎跡は明治 13 年に渋沢栄一氏らが開いた牧場の跡で、最盛期には牛 200 頭、馬 80 頭を放牧していて当時珍しい牛乳やバター、牛肉などを販売していたそうだ。

少し歩くと、左手に大涌谷やその下の町が見えてきた。さらに歩くと車道に出て、湖尻水門に着く。しばらく車道を歩いた後、芦ノ湖を見ながら歩こうと思い、湖畔沿いの遊歩道を歩く。

その他事業報告

★1%支援制度の支援金が確定しました

今年度も「自然と親しむ子ども山登り教室」のスタッフ交通費などを申請した八千代市の 1%支援制度の支援金の額が、25,400 円に決定しました。昨年よりも少額でしたが、みなさまのご協力により、支援いただけましたこと

桃源台は、芦ノ湖の海賊船に乗る人たちでぐった返していた。

我々は、トイレを済ませて、小田原駅行きのバスに乗り込んだ。渋滞で到着が遅れたが、ぐっすりと寝込んだので、ちょうど良かったかもしれない。



最後に、箱根湯本駅で電車に乗る際、視覚障害者の人がけがをしてしまいましたが、駅員さんに大変お世話になりました。駅員のみなさま、ありがとうございました。

山道などでは、しっかり注意しているので、事故は少ないのですが、安心したところで事故は起きやすいため、みんなで声かけなどをして、事故を未然に防ぐように気をつけたいと思います。

記：網干

コースタイム等

仙石原案内所前(10:20)…箱根湿性花園(10:35-12:30)…耕牧舎跡(13:55-14:10)…桃源台(15:00)

に深く感謝申し上げます。今後も、1%支援制度を有効活用させていただいて、子どもたちが心豊かに育つお手伝いを推進していきたいと思ひます。

▲第 14 回視覚障害者全国交流登山東日本大会の日程が確定しました

すでにお知らせしたとおり、来年度に当法人主催で実施する第 14 回視覚障害者交流登山大会の日程が、2014 年 9 月 13 日から 15 日に決定しました。場所もお知らせしたとおり、国立磐梯青少年交流の家（福島県）です。

場所を決定するに当たり、今年 9 月 14 日から 15 日にかけて実行委員 17 名で下見を実施し、交流の家と打ち合わせを行うと共に、実際に宿泊して交流の家で決められている流れを体験してきました。下見には、イベントを

実施して下さる福島市芸能協会の方も来てくださり、設備の確認も行いました。15 日には雨が降りしきる中を磐梯山、安達太良山、五色沼の 3 つのコースに分かれて下見を行いました。現在、実行委員以外の会員の参加予定が 9 名となっています。山口県や関西方面から多くの方が参加しますので、お迎えするためにも、ぜひ、当日はさらに多くの会員のみなさまの参加をお願いいたします。

各種連絡事項

★臨時総会開催

2014 年度の事業計画を決める臨時総会を 1 月 12 日の午前に、東京都内で開催します。

詳細が決まりましたら、議案書と共に送付しますので、ぜひご出席をお願いいたします。

★設立 10 周年記念パーティー開催予定

今年度は、設立 10 周年記念として、これまで八丈島、美ヶ原、北穂高岳などの登山を実施してきましたが、最後を締めくくる催しとして、記念パーティーを予定しています。臨時総会終

了後、都内で開催する予定です。詳細は、臨時総会の議案書と共に、お送りしますので、臨時総会と合わせて、ぜひご出席ください。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

9 月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。（敬称略）
正会員

1 名

●休会のお知らせ

残念ですが、下記の方が休会となりました。
4 名

編集後記

・理事長のつぶやき

今回、この機関誌のタイトルに使用した画像

は、1997 年に見ることのできたハールボッ

彗星です。20世紀最後の大彗星だったのではないかと思います。今年は21世紀最初の大彗星になりそうなアイソン彗星が太陽系の中に突入しており、この機関誌がお手元に届く頃は、太陽のエネルギーによって多くの塵を放出して1等星クラスの明るい彗星になっているかもしれません。12月5日から10日頃が一

番の見頃と思います。早起きして、5時過ぎの東の空を見てみてください。長い尾を引いた彗星が見られるかもしれません。

一番の見頃は過ぎていますが、12月22日～23日に、個人山行として入笠山のマナスル山荘に泊まって彗星の観測を行います。希望する方は早めに網干までお知らせください。

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

